

⑭国道19号 野尻地区交差点改良事業（二段階横断歩道の整備）

受賞機関 国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所

キーワード 二段階横断施設、交通島、交通安全事業、交差点改良**全建賞審査委員会の評価ポイント**

国道19号において、右折レーン設置や視距改良を行う交通安全事業で、横断歩道延伸や乱横断対策として、新たに二段階横断施設を整備した。交通安全対策の実施に当たり、二段階横断施設という幹線道路における無信号交差点での前例の少ない方法をとるなど、創意工夫を行った取組である点が評価された。

1. はじめに

飯田国道事務所は、長野県南部の国道19号、国道153号、国道474号三遠南信自動車道の3路線を管理しており、このうち、国道19号は長野県木曽郡南木曽町（岐阜県境）から塩尻市広丘高出（国道19号・20号・153号が接続）に至る約83kmを管理している。

国道19号は、大型車交通量が約3割を占め、物流などの広域交通を担う道路であるとともに、沿線住民にとっては日常生活に欠かせない道路である。しかし、山々に囲まれ、狭隘な中に木曽川、JR中央線と並走しており、道路の平面線形、縦断勾配は厳しく、視距不良や速度超過を起因とする交通事故による長時間の交通規制も多いため、交通安全事業を進めている。

2. 事業の概要

国道19号野尻地区交差点改良事業箇所は、右折レーンがなく、視距が悪いことにより、右折待ちの車両が後続車の進行を阻害することで、急ブレーキが多発し、追突事故が発生していた。この対応として、右折レーン設置や視距改良を行い、追突事故の防止を図ることとした。右折レーン設置に伴い、横断歩道が1車線分（約3m）延長される。また、当該交差点は無信号交差点であり、歩行者用信号機による横断時間の制御がないため、通行車両が停止しない限り、横断が困難などの課題があった。この課題の解決策として、車道中央部に横断歩行者が待機できる交通島を設け、2回にわけて横断できるようにする「二段階横断施設」を設置した。



二段階横断施設 整備状況

3. 事業の成果

二段階横断施設の検討に当たっては、一般社団法人交通工学会の「無信号二段階横断施設導入の手引き（案）（令和3年7月）」を参考にした。設計完了後、交差点改良事業で二段階横断施設の整備を行い、令和6年4月24日に完成した。

完成以降、当該交差点で追突事故は発生していない。また、当該交差点周辺の商業施設や歩行者から、「乱横断が減少し、横断歩道の利用が増えた」、「安全に歩道を渡れるようになった」、「対策前より車が止まってくれるように感じる」などの意見が出され、二段階横断施設設置の効果が確認された。



二段階横断施設 利用状況

4. おわりに

二段階横断施設の設置については、地域の方から感謝の声をいただいている。幹線道路の無信号交差点における二段階横断施設は事例が少ないが、本事業は比較的少ない費用で交通事故対策に貢献し、利用者からも高い評価を得ることができた。今後、同様の箇所があれば導入を検討していきたい。

賛助会員 松本土建(株)、技建開発(株)